

監督は村の人たちより もっと、怒っていました

『天に栄える村』 原村政樹 監督

2012 / 100分

吉成邦市 福島県天栄村 農業振興課 課長

Q: 2009年から天栄村を撮影されていますが…

原村 (HM): 別の作品のために取材していた村でした。そこが原発事故で被害にあったと聞いて、最初に行くのは気が重かったのですが、おもいきって役場の吉成さんに電話して、とにかく記録をとろうということになったんです。

Q: 3月11日に地震、12日に原発事故、それにもかかわらずその年も米を作ろうと、なぜ考えられたのですか？

吉成 (YK): 3月23日に福島全域でとれた野菜の摂取制限が出されました。降り注いだ放射線があと30年続くとか、たくさんのおまかせ情報もわからない情報が流れました。村の農家の人たちは元気をなくし、眠れないような日々が続いていました。今年は農業は出来ないのではないか、東電に保障を求めたらどうかという動きもありました。しかし、4月になって米の作付けが許可されたんです。それで徹底的な現実路線で除染をすすめ、おいしくて安全な米を作ることを目指しました。もともと、村では研究会などを通じて、農民同士の交流と信頼関係があったので、素早い行動が可能だったんだと思います。2011年は一刻の猶予もならなかったため、薬剤などの費用は皆自己負担でした。

Q: いろいろ除染の作業の場面がありますが、数字としての結果に関して、あまり描かれていないのはどうしてですか？

HM: テレビ番組などであれば、出発点があり、プロセスがあり、結果がどうなったかということがなければ番組として成立しないと言われるわけです。だけど今回の作品の場合、唯一数字として出しているのは、玄米の放射線量が測定限界以下だったところですね。あれは出さなければならなかったわけですが、その他のプルシアンブルー、ゼオライトなどの結果も聞いていますが、敢えて情報としては出さなかったんです。科学的な結果を出すことのメッセージ性とは何なんだろうか、ということを考えてみました。そのうえで、それよりも他に大切

なことがあるのではないかと思います。この作品を作るにあたって、一番大事にしたのは、科学者と一緒にいろんなことを試みたことや、農家の人がそれを実行に移したこと、それに生活することを描くことでした。なぜそれに取り組んだか、何を実行したのか。どういう気持ちでやったのか、そのなかでどういう事が起きたのか、そこに重点を置いたんです。この映画を観た人たちが、これなら応援したいという気持ちになってくれることが、とても重要でした。何々をした結果というところだけ取り上げて、米が売れましたというような単純な話にはしたくなかったんです。現実には、重層的な事柄がたくさん積み重なっているんです。簡単に納得してもらっては困るわけです。この映画は、原発事故が起きた時に、それに対して立ち向かっていった農家の人たちが、どういうふう生きてきたか、その心の葛藤を描こうという気持ちで編集していったんです。

Q: 震災から2年経ちましたが…

YK: 多くのメディアが、被害の特別にひどいところだけを取り上げていますが、それはごく一部に限られているんです。福島県内のほとんどの地域は、天栄村と同じように、目でみれば被害がわからないのだけれど、風評被害を含めて多くのダメージを受けています。だから私たちは作付が出来る地域として、立ち直っていく姿を見せていくことが、使命だと思うんです。そのことが、今は作付も出来ずに苦しんでいる人たちに、もう少ししたら、農業が出来るかもしれない、という希望を見せていけるのではないかと思います。



吉成邦市氏 (左) 原村政樹監督 (右)

(採録・構成 榎谷秀一)

インタビュアー: 榎谷秀一

写真・ビデオ撮影: 伊藤歩 取材日時: 2013年3月2日(土)

お寄せいただいたご感想の一部です。なお、他のご感想は <http://0311db.net/CWU/> にてご覧いただけます。

・ 集中を切らさず見る事ができた。農家の熱にグイグイ引張られた。大災害という大きな出来事に浮き足立つ事なく、登場人物たちの行動を撮ったからこそその感動だと思ふ。

・ 諦めない心、強い心、を特に感じました。そして… 継続は力なりですね。続きがまた見たいです。記録として残して欲しいと思いました。ありがとうございます。3日だけでなく、もっと長くやって欲しい。見に行くタイミングが…。(40歳、山形市)

・ ニュースや新聞だけでは伝わらない生の声、姿を見る事ができた。(30歳、天童市)

・ どの作品も丁寧に作られていて、制作者や出演者の思いがストレートに伝わりました。特にゲストのトークが印象に残りました。吉成さんの話は興味深く、見識の深さとリーダーシップの素晴らしさ、その行動力に感動しました。2階での「トークショー」の続きの茶会」はとて面白いアイデアです。たっぷり話を聞けました。(山形市)

・ 生きていく、進んでいく勇気をもらったような気がします。農業を深く考えている農家の方々、監督の思いがひしひしと伝わってきました。来てよかったです、ありがとうございます。(63歳、仙台市)

・ 初めて参加しました。震災を考える機会が少なくなっている事を私自身が自覚するいい機会となりました。映画というツールを通して、世界中で起こっている様々な事件を深く考え、社会に投げかけ、問題提起している人がたくさんいるんだなと思いました。震災復興に一役買いたいという気軽な理由で参加してみました。人間の生き方についてもっと深く考えねばならないなと、自身の人生に変化をもたらすかも知れない機会となりました。ドキュメンタリー映画を私の周りにも広げていきたいと思ふ。

(31歳、西川町)